



名市大では、文部科学省の支援による大学教育推進事業として今年から「医療系学部連携チーム」による地域参加型学習を開始します。この事業では、医・薬・看護学部混成学生チームが地域の活

動に参加し、地域の実際のニーズの発見と「学生なればこそできる課題の解決」を学習のテーマとします。活動を通じて地域の人々との率直な人間のふれあいを持ち、将来の地域医療を担う一員としての連帯感と責任感を育てたいと考えています。

現在、医師不足による地域医療の崩壊が社会問題となっており、この背景には医療サービスの上に見合う医師の



地域が参加する医療人育成

絶対数の不足の他に、医師の地域偏在と診療科間の偏在があり、医学生の地域医療に対する使命感やその基となる地域への親近感、連帯感の育成が求められています。

この課題への対応として、全国の多くの大学が、地域の医療・福祉施設での体験学習や一般病院での学外臨床実習を取り入れていています。しかし、体験学習は短期間の見学や体験が中心で、現場からみると「学生たちが一時的にやってきて去って行くだけ」に終わりが

ちです。また、学外臨床実習も、高学年では卒後の研修先を見つけないための「就活」が中心になり、地域医療に対する使命感や連帯感の育成にはつながっていないのが実情です。

そこで、名市大では、見学や体験にとどまらず学生が地域の活動の一部として参加する「地域参加型学習」を目標とします。具体的には、医・薬・看護学部1年生を中心とする24チームが、大学近隣地域、連携病院の周辺地域、遠隔地など24地域を担当します。チーム

は、まず地域の方々との面会や懇談を通じて、地域の健康・福祉、生活と医療、病院と地域との関わりなどに関する活動を教えていただきます。次に、地域の活動に参加し、それを手伝わせていただく中で、学生の視点から地域のニーズを見出し、出たニーズを地域で報告させていたたく機会を持ち、地域の方々やご提案を大学の教育内容にも活かしていきたいと思っております。皆様の地域に学生たちがやって来ましたら、地域の将来を担う人材として温かい目で見守っていただき、なにとぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページ
http://www.med.nagoya-u.ac.jp/amec/
名古屋市立大学大学院
医学研究科
医学・医療教育学分野
教授
早野順一郎